

第1回 松戸市都市再生緊急整備地域準備協議会議事録（概要版）

開催日時	平成30年5月7日(月) 16:00~18:00
開催場所	松戸市役所5階 市民サロン
出席者	<p>■委員</p> <p>東日本旅客鉄道株式会社 東京支社 企画調整課長 塩ノ谷浩司[※] 松戸商工会議所 専務理事 薄葉博司 東京工業大学 環境・社会理工学院 建築学系 教授 中井検裕 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 芸術・文化政策センター長 太下義之 千葉大学大学院 園芸学研究科 准教授 秋田典子 内閣府 内閣参事官 寺元博昭 経済産業省 関東経済産業局 地域経済部長 三浦裕幸 国土交通省 関東地方整備局 企画部 広域計画課長 永江浩一郎[※] 国土交通省 関東地方整備局 建政部 都市整備課長 熊木雄一[※] 千葉県 県土整備部次長 保坂隆[※] 松戸市 経済振興部長 渋谷和夫 松戸市 街づくり部長 福田勝彦 株式会社千葉銀行 松戸支店長 中臺雅樹 株式会社日本政策投資銀行 地域企画部 課長 恩田恭良[※] [※]…代理者</p> <p>■事務局</p> <p>松戸市</p>
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 松戸市長挨拶 3 委員紹介 4 座長（松戸市街づくり部長）挨拶 5 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 準備協議会の目的及び概要について (2) 指定候補地域の概要について (3) その他 6 閉会

1. 開会

2. 松戸市長挨拶

- ・松戸市は、昭和 35 年の常盤平団地整備後、人口が増加してきたが、それから 50～60 年が経過し、まちをつくりなおす時期になっている。近年、上野東京ラインや外環道路の開通などインフラ整備が進む中、公共施設や駅周辺施設の老朽化への対応が必要となっており、松戸駅周辺を再生する良いタイミングと認識している。都市再生緊急整備地域の指定によりまちの再生を促進し、20 年、30 年先を見越したまちづくりをしていきたい。これからは東京の一極集中ではなく、地域に分散させていくことも重要である。皆様の知恵を借りながらすばらしいまちをつくっていただければと考えているので、よろしくお願ひしたい。

3. 委員紹介

- 事務局より、準備協議会の委員紹介を行った

4. 座長（松戸市街づくり部長）挨拶

- ・松戸市では 2060 年の人口 50 万人を目標とした人口ビジョンを策定している。具体的な施策として様々な事業を推進しているが、市全体のまちづくりを推進していくに当たり、とりわけ松戸駅周辺の再生は必須だと考えている。松戸駅周辺の都市再生緊急整備地域の指定により、官民連携で松戸駅周辺を再生させることで、市全域へ波及効果を浸透させ、候補地域から指定へと進むリードケースとして国家政策に資することが可能だと考えている。本協議会の附議により松戸駅周辺を中心とする本市が大きく発展できるようお力添えをいただきたい。よろしくお願ひしたい。

5. 議事

（1）準備協議会の目的及び概要について

- 内閣府より、準備協議会の目的及び概要について説明

（2）指定候補地域の概要について

- 事務局より、指定候補地域の概要について説明

◆審議内容（各委員からの意見）

- ・大学と連携している地域はうまくいっている例が多い。都市再生の分野はまちづくり関係の学部だけでなく文学系など様々な学部が関係してくることもあり、幅が広がる。どんどん連携してほしい。
- ・起業の分野が出てくればさらに良い。
- ・国際競争力の強化など、国益としてのグローバルな視点とローカルな松戸市の視点をどのようにすり合わせていくかが協議会のポイント。
- ・駅周辺で様々な事業を進めているが、都市再生緊急整備地域の候補地域となったことで自らハードルを上げたことになる。地域指定に向けていろいろなチャレンジをしていかなければいけない。
- ・松戸のような大都市近郊の都市再生をこれまでの古典的な手法で行ってしまうと、30～40 年後にはもたないという問題意識があるからこそ候補地域に立候補したと感じている。大都市近郊が一番難しい地域だと思うが、今後 20～30 年後に重要となるであろうキーワードを出し合いながら、松戸駅周辺の再生に必要な器の中身をブレインストーミング的に出し合っていくことが必要。
- ・候補地域を機会に何かしらジャンプをしていかなければならない。松戸市が、今後都市再生をしようとしている大都市近郊エリアの手本となっていかなければならない。国が目指しているものに松

戸市がどこまでチャレンジできるかが求められていると思うので、委員一丸となって頑張っていきたい。

- ・宿場町という歴史は、よそ者を受け入れる DNA があると認識している。パラダイスエアのような事例はまさにその例である。このようなクリエイティブなことをやっていかなければならない。
- ・業務のあり方が変わっていくなかで、兼業・副業を認める企業の誘致など、今後の新しい働き方を促進するような取り組みが求められる。
- ・例えば、ブロックチェーンの技術は土地の登記（台帳）に応用できると考えていて、そういうことにチャレンジしていけばおもしろい。
- ・都市再生のあり方として、都市において産業のパラダイムシフトがどう起きるか、20、30年後の都市の未来像を描くことが大切ではないか。課題を乗り越えるために、全く新しい手法で取り組むことが重要。
- ・エリアが限られているので、手を広げすぎず、どのように周辺に影響を与えていけるかといった視点で考えていかなければならない。
- ・この場の議論をどのように情報提供していくかも考えていかなければならない。
- ・近未来技術系の内容は何らかの形で盛り込んでほしい。自動運転など、これまでやっていないものを盛り込んでほしい。
- ・駅周辺から松戸市全体に与える影響も踏まえて大局的に考えていく必要がある。駅周辺に高層マンションが整備された場合、6～7割は市内からの移転のため、転居元が空家になるなどのマイナス面もある。
- ・商業衰退と言われている中で、核であった伊勢丹が無くなったことは大きな痛手である。代替りのテナントが入ることで、商店街の活性化につなげていければと考えている。
- ・オフィス関係では、地方創生推進交付金を活用し、駅周辺にインキュベーション施設を整備予定である。

6. 閉会

以上